HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	あとがき
Citation	北大百二十五年史, 論文・資料編, 1091-1093
Issue Date	2003-02-21
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30138
Type	departmental bulletin paper
File Information	hokudai125yr_siryo_atogaki.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

あとがき

本書は、『北大百二十五年史』の「通説」（二〇〇三年刊行予定）の別冊として企画されたものである。『北大百二十五年史』の一部として「論文・資料編」が考えられたのは以下の事情による。以前に編纂された『北大百年史』通説には、「北大百年の諸問題」と題して、三一編の論文が掲載されていた。これは、大学史としては他にあまり例を見ないものであるが、それぞれの論文の水準が高く、専門家からも高い評価を得ている。今回、『北大百二十五年史』を企画・編集するに際して、この「北大百年の諸問題」が継承され、単独で一巻をなすものとして『北大百二十五年史　別冊論文集』（仮題）の編纂が企図されたのである。

北海道大学百二十五年史編集室メンバーを中心に別冊論文集編集班（白木沢旭児文学研究科教授、杉山滋郎理学研究科教授、坂下明彦農学研究科助教授、井上高聡編集室編集員）を組織し、一九九九年度から編集作業を開始した。同年八月には、「『北大百二十五年史　別冊論文集』（仮題）論文公募のお知らせ」と「『北大百二十五年史　別冊論文集』（仮題）投稿規定」を作成し、学内において、さまざまなかたちでの広報を開始した。投稿論文の分野としては、

A. 札幌農学校から現在にいたる北海道大学の歴史に関する研究

B. 学科・講座等の制度的変遷、研究・教育の史的回顧などの学問発達史・学説史的研究

C．北海道大学と地域社会、学生・教職員のあり方などに関する社会史的研究

D．その他

という四つのジャンルを設定した。投稿資格は、「北海道大学教職員・大学院学生・学生・研究生、卒業生、元教職員、その他北海道大学百二十五年史編集室が認めた者」と大学院生や学外の方をも含めた。『北大百年史』が現職教員および名誉教授の論考からなるのに対し、大学院生など若手研究者の寄稿を促すこととしたのである。また、学内外に広く投稿を募るとともに、編集班として大学史に造詣の深い教員に対し、積極的に原稿を依頼することにした。

また、このような投稿論文募集の取り組みとともに、大学史に関する研究の活性化、交流を意図して、「北大一二五年史研究会」を組織し、一九九九年度、二〇〇〇年度にそれぞれ一回ずつ研究会を開催した。論文エントリーの締切を二〇〇一年三月とし、投稿論文に関しては、編集班が各論文につきそれぞれ二名の査読者を決定し、審査した。最終的に、依頼分を合わせて、一二本の論文を本書に収録することができた。本務および本来の専門の研究が多忙ななかで、『北大百二十五年史』に寄稿して下さった論文執筆者の方々には、厚く御礼を申し上げたい。

編集作業の途上で、本書に資料を追加し、書名を『北大百二十五年史』論文・資料編とすることが決定された。資料編は『北大百年史』に準拠し、「式辞等」、「歴代の学長・総長および部局長等」、「学内規程等」、「統計」、「年表」により構成した。資料編の編集は、北海道大学百二十五年史編集室（井上高聡、原口希、山本美穂子）、原暉之スラブ研究センター教授（編集室長）、白木沢旭児文学研究科教授（編集室員）が担当した。

本書に掲載された論文からは、大学史というものは、ある時代・社会の知の歴史に他ならないことを実感することができる。そのなかでも、北海道大学ほど、実に多くの人々によって、多様な関心からその歴史が語られ続けている大学は他に例を見ないであろう。北海道大学関係文献としてあげられたものは三〇〇点を超え、これに雑誌掲

載論文を加えれば、おびただしい数の文献が刊行されているはずである。このような成果を踏まえ、大学史の研究が、今後とも継続して活発に行われ、大学史が多くの人々に共有されることを期待したい。

二〇〇三年二月

北海道大学百二十五年史編集室